

# 鹿大ジャーナル

## 鹿大広報

鹿児島大学が発信する最先端情報マガジン

<https://www.kag-u.ac.jp/~magazine/>

08 潜入レポート ～学びの部屋～

### 大学で学ぶための 基本的スキルを学ぶ

学術研究院総合科学域総合教育学系  
伊藤 奈賀子 准教授

10 先輩からのメッセージ

OB: MINIATURE LIFE CO., LTD.  
ミニチュア写真家・見立て作家 田中 達也さん

OB: 株式会社 freep  
代表取締役 鯨島 悠さん

12 研究室からSCHOLAR INTERVIEW

### 科学研究の源は「面白い！」

学術研究院理工学域理学系 小山 佳一 教授

### 土器から過去の社会を復元する

学術研究院法文教育学域法文学系 石田 智子 准教授

16 鹿大トピックス

### 稲盛和夫鹿児島大学名誉博士像 完成披露記念式典を挙げる

ほか

19 進め! 鹿大生

### 直感と想像力に従って、 やりたいことをやれるだけやるのみ!

共同獣医学部獣医学科4年生 丸山 寛詞さん

### さつつんが行く! ボランティア支援センター

特集

## 高度な獣医療と獣医師教育を推進する 拠点施設として





特集

# 高度な獣医療と獣医師教育を推進する 拠点施設として 共同獣医学部附属動物病院整備事業のあらまし

本学共同獣医学部では、獣医学教育の国際的  
認証（E A E V E）取得を目指し、平成24年度  
より「国立獣医系4大学群（帯広畜産大学、北  
海道大学、山口大学、鹿児島大学）による欧  
米水準の獣医学教育実施に向けた連携体制の構  
築」事業を進めています。

事業の一環として、共同獣医学部附  
属動物病院では小動物診療センターの  
新築及び大動物診療センターの改修を  
行い、平成29年5月15日、新病院の運  
用がスタート。欧米水準の獣医学教育  
に対応できる実習施設として、また獣  
医療の高度化を自ら推進する新病院と  
して生まれ変わりました。

新病院は、伴侶動物及び産業動物  
の診療スペースの拡充、24時間診療  
体制構築、バイオセキュリティ（防  
疫）の強化等を実現。国際的に活躍  
できる獣医師を育成するとともに、  
地域にハイレベルな獣医療を提供す  
る南九州の中核病院として、わが国  
の獣医学教育の水準向上に貢献する  
ことを目指しています。



## 動物病院沿革

- 昭和16年 8月：家畜病院設置（鹿児島高等農林学校獣医学科）
- 昭和24年 4月：新制鹿児島大学発足。農学部附属家畜病院へ改組
- 平成17年 4月：国立大学法人鹿児島大学農学部附属動物病院（改称）
- 平成19年 4月：診療科の新設
- 平成20年 4月：家畜人工授精所の開設
- 平成20年12月：軽種馬診療センターの新設
- 平成21年 4月：磁気共鳴断層撮影装置（MRI）の導入
- 平成24年 4月：共同獣医学部附属動物病院（名称変更）





# 世界で活躍する人材の育成と 高度獣医療提供による地域貢献を目指して

— 共同獣医学部附属動物病院の使命 —

共同獣医学部では地域貢献、教育、研究、国際化という3つのテーマが活動の柱にあります。学部附属の動物病院も、開かれた動物病院として地域に貢献するとともに、獣医師として国際的に活躍できる人材を育成するという目標を掲げています。

地域貢献に関しては、犬、猫など伴侶動物の診察において高度な獣医療を提供することが私たちの使命と捉えています。一般のクライアントの方々はもちろん、地域の動物病院の二次診療施設として高度な獣医療サービスを提供し、地域社会のニーズに応えることが求められています。また、畜産県に位置する獣医療の拠点として、牛を中心とした産業動物、さらに馬の診療施設を設置しています。これは獣医系大学の附属動物病院の中でも他に類を見ない特徴と言えます。

他方、教育という側面において、獣医学部では国際的に即戦力として活躍できる獣医師の養成を目指し、

欧州の獣医学教育認証機構による認証を睨んだ改革を行ってきました。改革を進める中で、動物病院の機能拡張と充実が求められ、今回、小動物診療センターの新営と大動物診療センターの改修を実施いたしました。鹿児島市中心地に位置する本院は、とりわけ60万の人口を抱える鹿児島市域からの利便性に優れているのも特徴です。クライアントの皆様、地域の臨床獣医師の先生方と十分な信頼関係を築きながら、南九州の中核施設としてクオリティの高い獣医療を提供してまいります。



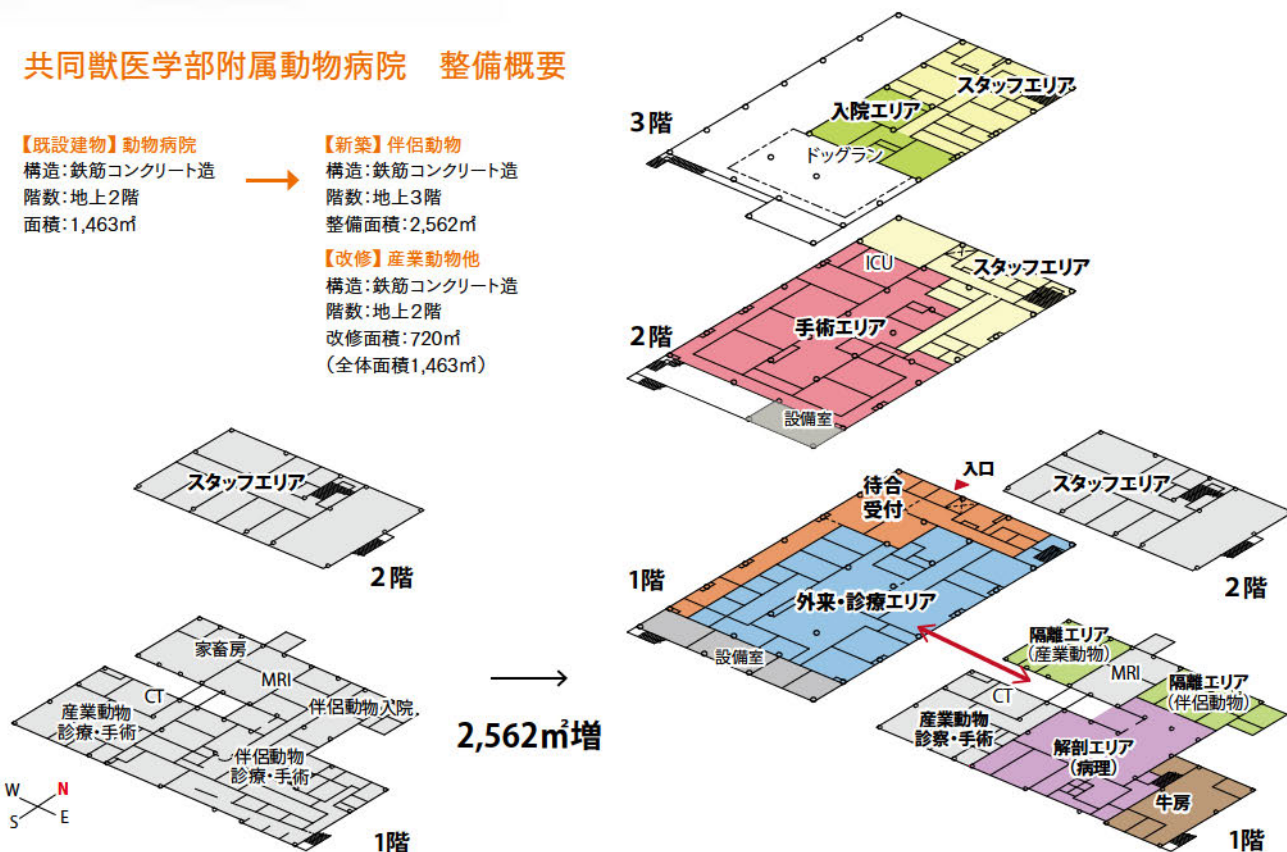
共同獣医学部  
臨床獣医学講座 教授  
附属動物病院長 遠藤 泰之

## 共同獣医学部附属動物病院 整備概要

【既設建物】動物病院  
構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上2階  
面積：1,463㎡

【新築】伴侶動物  
構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上3階  
整備面積：2,562㎡

【改修】産業動物他  
構造：鉄筋コンクリート造  
階数：地上2階  
改修面積：720㎡  
(全体面積1,463㎡)





## 小動物診療センター

新築された小動物診療センター(地上3階建て、延べ床面積2562平方メートル)は、診察室を従来の2倍の8室へ、手術室は2室から5室へと拡充しました。一般診察室は犬用5室、猫用2室、夜間救急用1室を設置。これらのうち3室は参加型実習に対応し、その他に隔離診察・処置・入院室を新設しました。また、運動器具を備えた理学療法室や動物の高齢化に伴って需要が増えている腫瘍に対する化学療法室、眼科検査室、歯科の治療室も新設しました。屋上にはドッグランを設け、主に回復期の動物たち向けに活用されます。

同時に、夜間診療体制の拡充に合わせ、当直室やスタッフルームを新設。新体制での診療がスタートしています。



手術室



参加型実習診療室





猫待合室



犬待合室



猫入院室



犬入院室・小型



犬入院室・大型



ドッグラン



内視鏡・歯科治療室



臨床検査室







大動物診療センター



牛・馬繋留場



隔離施設



大動物診療センター（延べ床面積1463平方メートル）は従来の2階建ての動物病院を改修。防疫対策として一般入院設備の拡充及び病理解剖室、隔離処置室などを新設しました。国内有数の畜産地帯に立つ拠点動物病院として、健やかな産業動物の育成と食肉の安全確保、人畜共通伝染病の感染防御等に貢献しています。

## 大動物診療センター





南九州における馬獣医療基地としての役割を果たし、軽種馬生産および育成の基盤強化への貢献を目的として平成20年12月、設置されました。軽種馬生産および育成に関する情報提供や現地指導などを実施。獣医療に関する新たな技術開発を推進する研究施設として、また国内でも数少ない馬獣医療の教育施設として貢献することを目指しています。

軽種馬診療センター



本学では大隅半島の畜産振興と人材育成を目指し、平成28年5月、曾於郡大崎町に大隅産業動物診療研修センターを設置しました。共同獣医学部教職員が常駐し、畜産家向けの研修会を開くほか、家畜伝染病の発生に際しては検体持ち込みの窓口としての機能を果たします。また、獣医師を目指す学生の臨床実習基地としての役割も担い、体制の充実を図っています。

大隅産業動物診療研修センター

[夜間診療体制拡充] 平日24時間体制スタート! 伴侶動物診療科

■診療のご案内

診察受付時間(月～金曜日) ※完全予約制	午前の外来診療	9:00～11:00
	午後の外来診療	14:00～16:00
	夜間(救急)診療	19:00～翌6:00
休日	土曜日・日曜日・祝日・大学休業日(お盆・年末年始)	
お問い合わせ先	鹿児島大学共同獣医学部附属動物病院.....TEL: 099-285-8750 夜間(救急)診療専用.....TEL: 099-285-8671 ※昼間予約電話で夜間診療のご予約・ご相談は受け付けておりません。 ※犬・猫以外の動物については受付にてお問い合わせください。	

■夜間(救急)診療について

- 夜間診療のご予約・ご相談は当日の夜に受け付けます。【完全予約制】
- 夜間専用電話で昼間診療のご予約・ご相談は受け付けておりません。
- かかりつけの動物病院がある場合は、その休診中となる夜間での検査や応急処置を行います。翌日以降は、かかりつけの動物病院での受診をお願いいたします。
- かかりつけの動物病院がない場合も対応いたします。
- 診療内容によっては対応できない場合があります。
- 服用中のお薬、検査データがありましたらご持参ください。
- 通常の診療料金に夜間診療料金が加算されます。
- ワクチンなどの予防接種は行っておりません。
- 飼い主のいない動物の治療等は、連れてこられた方の責任でお願いいたします。
- 受付の順番に関わらず、緊急患者優先とさせていただきます場合があります。
- 診察の混み具合によっては、多少お待ちいただく場合があります。

求めています!

供血犬・供血猫のボランティアおよび輸血が必要な患者さんのために血液を提供していただけるドナーを募集しています。供血犬・供血猫ボランティア、および輸血ドナーに登録いただける方は、獣医師が詳細をご説明しますので、受付までご連絡ください。







活動の進め方はグループ次第



大学でうまく学ぶためのスキルがこの1冊に凝縮



# 「初年次セミナー」（共通教育科目）

● 学術研究院 総合科学域  
総合教育学系 准教授

伊藤 奈賀子 先生

大学進学率が過半数に達する現在、諸大学では新入生を対象とする初年次教育に力を入れている。本学においても、全学部の1年生を対象とした必修科目「初年次セミナー」が2016年度よりスタートした。授業内容は、メモの取り方から図書館活用法、プレゼンテーションの要点、効果的な質疑応答の仕方など、学習・研究活動の基礎力を育むカリキュラムが組まれている。いわば「大学で学ぶためのスキルを学ぶ」授業なのだ。講座の運営に当たる伊藤先生の授業を覗いてみた。

## 学部混成型のクラス編成で他者との協働を学ぶ

「レポートのタイトルには『〜について』というものが多いのですが、『〜』に出てくる言葉は結構広い範囲の言葉が多い。その中であなたは何に関心を持ったのか、ということ は伝わりづらいわけです。タイトルも、相手にアピールする材料の1つだということを入れてくださる。宿題のレポートを返しなが

受け手側を意識する視点を持つこと の大切さを伊藤先生は説く。「プレゼンテーションについても、関心を持ってもらうためにはどんなタイトルをつけるか、きちんと考えるようにしてほしいと思います」

「初年次セミナー」の1クラスは、複数の学部生30人程度で編成され、授業は、本学の教職員によって編集されたテキストに沿って進められる。さらに、学びを深めるため、5、6人のグループ単位によるアクティブ・ラーニング型の学習を取り入れているのもこの授業の特徴だ。情報収集力や論理的思考力などに加え、他者と協働する中で求められる幅広い人間力の養成も教育目標の1つである。面識のない学生同士がグループを組み、グループ名を決め、テーマを設定し、最終的にクラス内でのプレゼンテーションを行うのである。授業を聞くだけの「受け身」の授業とは異なる、一種の緊張感が教室に漂っている。

## 頭と心をアクティブにする

アクティブ・ラーニングは、近年、


大学の教育改革に関する議論の中で注目を集めている学習の手法。アクティブという言葉から、グループワークやプレゼンテーションなど、学生が活発に行動するイメージが持たれがちだが、大切なのは「学習者の頭の中が活発に動いていること」だという。グループ学習やプレゼンは、考えたことを発表する機会として設定されているものだが、他者とコミュニケーションを図りながら課題を解決していく過程そのものも学び。「誰かがやってくれる、とみんなが思っている、課題は解決されるどころか、深刻な状況に陥りかねません」

## スイッチ・オン！

後日、全15回にわたる講座の中心で行われた中間プレゼンテーションを見学した。各グループの研究テーマは「現代社会の抱える課題」という範疇に入るものであればどんな分野でもよく、発表の方法も自由だ。手書きのフリッ

プを掲げるグループもあれば、プロジェクトを使ってパソコンで作成した資料を提示するグループも見られた。前回の授業で、少子高齢化というテーマについて話し合っていたあのグループは、少子高齢化による労働力不足にテーマを絞り、調査・分析を進めていた。そのほか、人工知能（AI）と人間の共生、貧困の中での子育て、待機児童問題など、大きなテーマの中から焦点を徐々に絞ってきた足跡が、各グループの発表から伺うことができた。発表後、感想を聞くと「緊張した」「周りのレベルが高くて驚いた」「準備の段階で、積極的に取り組む人とそうでない人の差があった」などの声が返ってきた。学生たちの頭の中で、確実に「アクティブ」へのスイッチが入っていることが感じられる風景であった。

profile



伊藤 奈賀子 (いとう・なかに) 准教授

鹿児島大学 学術研究院 総合科学域 総合教育学系 准教授、鹿児島大学 総合教育機構 高等教育研究開発センター

【最終学歴】名古屋大学大学院教育発達科学研究科 博士課程後期課程満期退学

【学部卒】名古屋大学教育学部

【学位】博士(教育)、名古屋大学、2010年12月

【所属学会】日本教育社会学会、日本高等教育学会

【専門分野】教育社会学、高等教育論

【研究テーマ】○高等教育カリキュラム ○日本語ライティング





MINIATURE LIFE CO., LTD. ミニチュア写真家・見立て作家

田中 達也(たなか たつや)

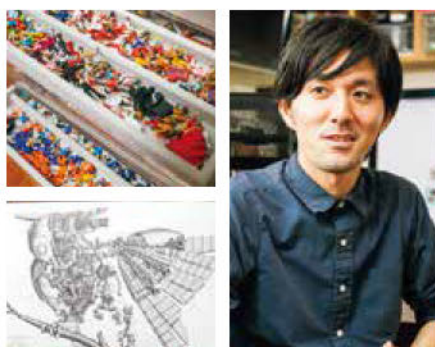
熊本市出身。2004年3月鹿児島大学教育学部美術科アサイン専攻卒業。同年、広告プロダクション「Crowd」入社、デザイナーとして勤務。2011年「MINIATURE CALENDAR」スタート。2015年9月MINIATURE LIFE CO., LTD.設立。2017年NHK連続テレビ小説「ひよっこ」のタイトルバックを担当。各地で作品展等多数。

OB OG Interview

01

## 三味線ざんまいの日に訪れた、思わぬ転機、 教育実習で得た学びを創作に生かし 今なお精進中。

**大** 学時代は邦楽部に入っていました。鹿大邦楽部はみんなレベルが高かったのですが、その中でもかなり上達して、一時期はプロを目指すことも考えていました。ただ、部活に没頭していたため必須単位が不足し、3年生の時、教育実習に行くことができませんでした。ですが、この時、鹿大で美術の学会が開かれたことが転機になりました。学生がみんな実習に行っていない存在なので、僕が学会の準備をする羽目になったのです。先生や先輩につきっきりで印刷物の作り方を学びながらポスターや垂れ幕、名札に至るまで制作しました。お陰で夏休みが終わる頃には、誰よりもデザイン力が身につけていたんです。



4年時には教育実習に参加できたのですが、制作に携わりたい気持ちが強く、卒業後は教職ではなくデザイナーの道を選びました。全く違う職種のようなのですが、人に伝えるというところは、教職もデザインも同じ。子どもに分かりやすく伝える、子どもの自由な発想を引き出す、ということを考えさせてくれた教育実習は、創作の仕事にかなり役立っています。

僕はずっと好きな道を歩いてきましたが、何であれ、中途半端は嫌いなたちです。三味線もデザインも、今やっているミニチュア写真も、地道な毎日の継続があつてこそ力がつく。アイディアが枯渇するまで出し切らないと次が出てこないのです。そうやって1つのことを追求していくと、出会いや巡り合わせによって転機が訪れる。そこで選んだ道にまた没頭する。僕はそんな人生を歩いています。





株式会社 freep

代表取締役 鮫島 悠(さめしま ゆう)

横浜市出身。2011年3月鹿児島大学教育学部保健体育科卒業。  
2012年12月株式会社freep設立。2013年鹿児島大学大学院教育学研究科中退。ゲームアプリのほか「スマートデバイス向け音声投筒型SaaS API」を利用したビジネスモデル等を開発。2017年3月には本学キャラクター「さつつん」のラインスタンプをリリース。

OB OG Interview

02



手当たり次第にビジネスへの入り口をこじ開けた学生時代。

時代にそぐわない既成概念を打ち壊して次代へ進め!

子

どもの頃からスポーツに熱中し、体育の教師を目指して教育学部保健体育科に入学したのですが、

教育界に違和感を覚え、何か他に自分にできることはないかと模索し始めたのが3年生の頃です。バスケの部活で鍛えた体力だけはある、とチラシを配布するポスティング事業を手掛けたのですが、無計画で始めたのですが、行き詰まりました。

次に思いついたのが、当時学生起業家が話題になっていたIT事業です。友人(現在の共同経営者・高橋亮さん)を誘って、初歩的な失敗を数々重ねながらも、ユーザー同士が物々交換できるウェブサイトをリリース。さらに鹿大生向けのSNSを開発し、新しいサービスをユーザーに提供する喜びと感動を味わいました。

そのSNSを契機として出会った小田先生(本学学術情報基盤センター助教)にさまざまなアドバイスをいただきながら、東京で開催され

た学生向けビジネスコンテストに出場。大手IT企業の技術者や国内トップレベルの学生たちの柔軟な発想と情熱に触れ、インスパイアされることが同時に自分のやってきたことが間違っていないことができ、起業を決めました。

今の時代、何か成すことへのハードルは低く、鹿児島にいても世界を相手にすることはできます。うちのゲームのユーザーもアジア各国にまたがっています。既成概念を打ち破って、いろいろなことにチャレンジしていいと思います。僕の次の目標は、会社を上場させることです。





## 研究室から



SCHOLAR  
INTERVIEW

### 科学研究の源は「面白い!」

～磁力を使って作り出す、常識破りの新技術を世界へ～

冷蔵庫やホワイトボードにチラシを貼り付けるマグネットやカバンの留め金のほか、パソコンや携帯電話、ハイブリッドカー、MRIなど、磁石はありとあらゆる場面で、私たちの快適な暮らしを支えてくれている。これら磁石の持つ力(磁力)を使って新しい物質の合成と制御、さらに、酵母菌のコントロールまで幅広い研究に携わり、常に世界初を目指す「磁力」のオーソリティー小山先生にお話を伺った。

常識を超えた物質を  
生み出す

小山先生率いる磁気物理学研究室の研究テーマは「磁場を利用した磁性材料の研究開発」。磁場を使って新しい物質を合成する、あるいは化学反応をコントロールするということを、実験を通して追究しているのだ。

従来、A元素とB元素からAB合金を作る場合、高温で溶解や化学反応によつて合成させるプロセスが必要だ。小山研究室と東北大学の研究者からなる研究グループでは、AB合金が磁石合金なら、たとえA元素とB元素が磁性を帯びていなくても、強い磁場を印加すると自らAB磁石合金になろうと、AとBの合成反応が著しく促進され、かつ磁石の結晶が一方方向にそろつて成長するということを数年前に発見。さらに今年初頭には、磁性を持たない合金(マンガナ+アルミニウム)を強い磁場の中で熱処理すると、マンガン原子とアルミニウム原子が自ら磁石合金になるように移動することを発見、強い磁性を帯びた磁石を合成することに成功した

枠を超える

と発表した。ニッケルやコバルトなど高価なレアメタルを使用しないため、将来的にはハイブリッドカーなどに使われる強力で安定的な磁石を安価に生産することも可能になる。また、新たな素材の組み合わせによって磁石を合成する可能性も広がった。

研究室では東北大学や東京大学などとの共同研究を積極的に進めている。「鹿児島大学という枠にとらわれると小さくなる。枠を越えることです」と小山先生。「例えば鹿大での予算や実験施設が不足であれば、他の所で実現できないか探してみる。小山に分からない話であれば、ほかの専門家を探しなさい」と学生には常々言っています。大事なことは、自分は何がしたいのかを明確にすること、と小山先生は語る。「自分が熱い気持ちで目標に向かっていけば、必ずサポートしてくれる人に出会い、受け入れ先にも理解してもらえるものなんです」。情熱と行動力、道を開いてきた自らの体験をもとにした言葉だ。





鹿児島大学小山研究室で開発した実験装置を東北大学の20T強磁場発生装置に設置。この装置で世界最高磁場中の高温熱処理—急冷が可能になった。



磁石で鉄球を引き付けて、磁場の強さを実感。実験はこの磁石の10-40倍の磁場(磁力)を用いて行う。



小山先生の論文集



## Scholar Interview

# 小山佳一教授

鹿児島大学学術研究院理工学域理学系  
総合教育機構 高等教育研究開発センター長  
理学部副学部長

**Profile** 小山 佳一(こやま・けいいち)  
愛媛大学理学研究科修士課程1994年03月修了。広島大学生物園科学研究科博士課程1997年03月修了。博士(学術)  
■所属学会: 日本鉄鋼協会、日本磁気学会、日本金属学会、日本物理学会  
■専門分野: 強磁場材料物性、磁気物理学  
■研究テーマ: ○強磁場、極低温、高圧力環境を用いた磁性体の基礎特性解明  
○次世代高機能性材料開発 ○磁場を利用した新物質探索と新規材料開発

学部、大学の枠を超えて実現したのが「磁場による焼酎酵母菌増殖抑制」の研究だ。一人の学生の疑問が発端となり、農学部の高峯和則教授と東北大学の協力を得て研究が進められた。その結果、強い磁場をかける焼酎酵母菌が増殖をやめ、磁場を取り除くとまた元気に増殖することが分かったという。「居眠り、つて僕ら呼んでるんですけど、酵母菌の種類によっても居眠りする磁場環境が異なったのも興味深いところでした」。さまざまな菌への応用も期待できるこの技術は、現在特許出願中だという。

### 物理は面白い

「物理が対象にしているのは自然現象。わたしたちが小さい時から知っていること、感じてきたことを見ているだけなのです」。そうはいっても、とりわけ文系の人間にとって、物理は難解というイメージが拭えない。「中学、高校の授業で数式を扱うようになると、アレルギー反応を示す子も多いですよ。僕自身、難しい原理や数式は得意ではな

かった。難しいことは別の人に任せて、自分は実験をやっているかと思つたわけです」。実験を通して自分でわかつたことは絶対に忘れないと先生は言う。「まずは自分で実験を試みてわかつた、そうなんだ、という手ごたえを重ねていけばいいと思うんです。理科が本当に好きになると、数式が必要になった時は勉強するものです」

### 「用語の説明」

☆磁場: 磁石や電流のまわりに生じる、磁力の働いている空間。

☆強い磁場: 1T(テスラ)は地磁気の2万倍の強さの磁場、本文中の「強い磁場」は最大20T(地磁気の40万倍)の磁場





## 研究室から



SCHOLAR  
INTERVIEW

## 土器から過去の社会を復元する

～考古学の成果を科学的に検証する「胎土分析」は第2の発掘!～

一般的に考古学者が土器を研究する時、その形や色、土や鉢物を肉眼で観察し、直感力をも駆使しつつ過去のデータに照らし合わせるという手法が取られている。その伝統的な考古学の手法に地球科学的な手法を融合させ、より精密なデータを導き出すのが「胎土分析」と言われるアプローチである。胎土分析を導入している考古学者はまだ国内でも稀有な存在だ。

### 昔の人とつながる

「最初、土器を触らせてもらった時、中に指の跡がついていたんです。そこにフィットした時、ああ、昔の人と繋がっているんだと」。物を介して昔の人の姿に触れることができるのが考古学の魅力、と石田先生は語る。中でも「人の手で作られる土器は、作った人の考えが伝わってくる道具です」。また、土器は作られた時期や地域によって異なる特徴を示すことから、考古学では、時間の物差し、地域性を表す指標としての役割も担う。土器の研究は、考古学の軸となるのである。

石田先生の研究のメインテーマは北部九州の弥生時代。中でも、葬送の時に使われた土器を通して、過去の人々の社会生活を研究してきた。現在、熊本県の依頼を受け、阿蘇地方の研究を進めている。「お葬式に集まる人が物を入れて持ってきて、要らなくなったたら捨てて帰る。昔もケガレの観念があったためだと思

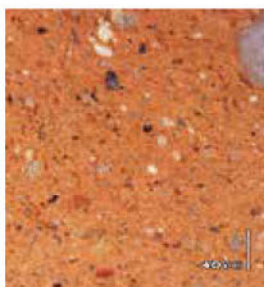
うんですが、土器を眺めていると、過去の人間社会が見えてくるようで、興味深いです」

### 隙間を埋める

別々の地域で似た形の土器が出土した場合、同じ場所で作られて各地に運ばれたものか、あるいはそれぞれの場所で作られたものなのか、従来の考古学的手法では、学者の観察眼と経験などに頼らざるを得ない。その中の推測の域を、自然科学的アプローチで埋めようとするのが胎土分析だ。「壹岐で出土した土器が北部九州から持ち込まれたのか、現地で焼かれたのか分からないものがありました。それが胎土分析の結果、大部分は壹岐で作られたものであるということが判明したこともあります」

石田先生が土器の胎土分析に着手したのは、博士課程在籍中のおよそ6年前。「同じ棟に地球科学系の研究室があつて、何か一緒にやろうという話になったんです。飲み会の席で(笑)」。ピーカーの洗い方、





## 石田 智子 准教授

鹿児島大学学術研究院法文教育学域法文学系  
博士(比較社会文化)

**Profile** 石田 智子(いしだ・ともこ)  
九州大学大学院社会文化学府博士後期課程2011年5月単位修得  
退学、日本学術振興会特別研究員PDを経て現職  
■所属学会: 日本考古学協会、日本文化財科学会、考古学研究会、  
九州考古学会、鹿児島県考古学会  
■専門分野: 考古学  
■研究テーマ: ○土器動態からみた弥生時代地域社会構造の研究  
○地球科学的高精度胎土分析の方法論の開発および実践



顕微鏡の使い方など、地質学者の実験手法を1から教わりながら、考古学的視点を取り入れ、独自の実験手法を編み出してきた。石田先生の分析方法は、土器をすりつぶしてガラスビードを作り、蛍光X線分析装置で化学組成を測るといったもの。微量元素の測定が可能になった。「それまで肉眼で見て直感的に判断していたことが数字で見えるのでワクワクしました。逆に、肉眼だけで判断する怖さも感じました」

### 第2の発掘

胎土分析による土器の研究は「第2の発掘」と石田先生は言う。「これまでは発掘作業が優先されてきました。土地の開発がある程度収まった今、これまでに掘り起こした資料をどれだけ活用するかということが重要視されます。収蔵庫に眠っている出土品を分析することで、これまで分かっていたことが解明される可能性は多分にある、と石田

先生は話す。「これまでは展示できる完形品が注目されていましたが、その背後には膨大な破片があります。破片の断面にも重要な情報が秘められており、科学的手法を用いることで、多くの情報が得られる見込みがある。南九州の出土品は、そのほとんどが科学的分析を待っている状況だ。今後、実験施設の整備と実験費用の確保も課題になってくる。

「学生の中には、過去をファンタジーのように捉える向きもあります。でも、現代に残された文物は、過去、人々が生きていた証。物を通じて、先人の思いや暮らしに思いを馳せてほしいと思います」。その思いを学生と共有すべく、石田先生は自らの研究の傍ら、奄美・加計呂麻島での戦跡調査に乗り出した。「実際に足を運び、島の人の話を聞きながら遺跡に向き合うと、自分とのつながりが分かりやすいと思うんです。何か感じ取ってもらえると思います」。土器を通して先人と会話する考古学者の願いである。





## 稲盛和夫鹿児島大学名誉博士像完成披露記念式典を挙行

鹿児島大学郡元キャンパス学習交流プラザ前の「進取の気風広場」に、本学工学部卒業生で本学名誉博士の稲盛和夫氏(現京セラ(株)名誉会長)の立像を建立しました。建立に伴う記念式典(除幕式)を3月27日に行い、前田芳實学長、稲盛和夫名誉博士をはじめ、三反園訓鹿児島県知事、森博幸鹿児島市長、岩崎芳太郎鹿児島商工会議所会頭、江口正純同窓会連合会会長など来賓者を含めて約100名の関係者が出席しました。

はじめに、前田学長から「本学の教育理念である『進取の精神』のシンボルとして、学生、教職員のさらなる飛躍の原動力となるとともに、稲盛和夫名誉博士の人間教育の神髄にも触れる機会になるものと期待しています」と挨拶がありました。その後、三反園知事からの来賓者代表祝辞に続き、前田学長や稲盛氏らによる除幕が執り行われ、披露された立像に会場からは盛大な拍手が送られました。

稲盛氏は、これまで、本学の経営協議会委員や学長諮問会議委員として運営に協力するとともに、科学技術を中心とした知的交流を促進するための「稲盛会館」の寄贈や人間力の総合的育成を目指す「稲盛アカデミー」の発足ならびに「稲盛アカデミー棟」の建設支援、学生支援のための稲盛奨学基金の創設など、本学の教育研究の発展に多大な貢献をされており、平成11年には本学第1号となる名誉博士の称号を授与されています。

また、鹿児島県内の高校生や大学生などを対象とした京都賞受賞者による「鹿児島講演会」の開催など、地域の教育及び国際交流の発展にも尽力されてきました。

今回の立像の建立は、これら長年の氏の功績と貢献に敬意と謝意を表すとともに、後に続く本学や郷土の後輩たちにその功績を伝えるために企画・実施したものです。



## 鹿児島銀行ならびに県内高等教育機関と「地方創生への取組みに関する連携協定」を締結

鹿児島大学は、4月7日、鹿児島銀行「かざん会館with」において、鹿児島銀行ならびに県内高等教育機関9者による「地方創生への取組みに関する連携協定」を締結しました。

本協定は、鹿児島大学と鹿児島銀行が相互に連携・協力し、互いが有する情報やノウハウ等を活用することにより、鹿児島県内の産業の発展および人材の育成を図り、地方創生の実現に寄与することを目的としています。

今回の協定締結では、矢野隆一鹿児島銀行取締役地域開発部長による協定内容の説明のあと、9者による協定書への署名が

行われました。その後、上村基宏鹿児島銀行取締役頭取の挨拶に続き、協定者代表として、本学前田芳實学長から挨拶がありました。前田学長は、「産学金の連携により、大学だけでは成し得なかった新たな人材養成プログラムやキャリアデザイン教育の組み立て、また、地域の新たな事業モデルやビジネスモデルの研究が進むものと期待します。今回、この『ネクストかごしま』が設立されたことを契機に8つの高等教育機関が、『オール鹿児島』として地方創生に取り組んでいきたい」と連携に対する抱負を述べました。

注:「ネクストかごしま」は、鹿児島県内の連携・協力事項を円滑に推進するため、本協定締結校8校を発起人大学とし、鹿児島銀行を事務局とした「鹿児島の次世代を担う「人材・産業」育成プラットフォーム」の組成のことで







## 鹿児島大学と山口大学「共同獣医学研究科」設置構想を発表

4月21日、鹿児島大学郡元キャンパスにおいて、鹿児島大学と山口大学による「共同獣医学研究科」設置構想に関する記者発表を行いました。

記者発表では、前田芳實鹿児島大学長及び岡正朗山口大学長による挨拶後、宮本篤鹿児島大学共同獣医学部長と木曾康郎山口大学共同獣医学部長が、設置に向けての概要と今後の展望を説明しました。

鹿児島大学と山口大学は、平成24年4月に、それぞれ、獣医学部教育におけるさらなる充実・発展を目的として、共同教育課程制度を活用した「共同獣医学部」を設置しました。これは、日本で初めての共同設置の学部となり、日本の大学教育の中で大きく注目されているところです。

平成30年3月、共同獣医学部の第一期卒業生を輩出する予定であることから、同年4月に鹿児島大学と山口大学との連携による「共同獣医学研究科」を開設し、更に高度な専門性を身につけた博士及び専門獣医師を養成。多様な獣医学的課題解決に対応できる専門家育成の要請に対応することを目指しています。

この共同獣医学研究科の設置は、欧米の獣医学教育に必須とされている「学士課程を補い強化するための先進的卒後教育プログラム」にも対応するものと期待されます。



## 全学必修科目「大学と地域」で三反園鹿児島県知事による講義を開催

鹿児島大学は、4月25日、すべての学部生にとって卒業要件となっている全学必修科目「大学と地域」において、三反園訓鹿児島県知事を講師として招き、「『新しい力強い鹿児島を目指して』～鹿児島大学の学生に期待すること～」と題した講義を開催しました。

本科目は、(1)大学の学修に必要な論理的思考力や課題発見・解決の能力を醸成、(2)地域の現状・課題等を学ぶことで地域志向マインド(地域貢献の意欲)を持った人材を育成、(3)地域志向マインドの醸成に必要な、地域の特性、優位性、発展可能性の理解を促進、(4)上記(1)～(3)を通して地元への就職意欲の増進、を目的としています。講義は、10分野の科目のうち「農業」と「まちおこし・教育」を選択している学生の講義室で行われ、残り8分野を選択しているほかの講義室で受講している学生には、講義の様子がインターネットで配信され、約1,100名が受講しました。

三反園知事は、テレビ局コメンテーターの経験を生かしたユーモアのある語り口で、クイズ形式で鹿児島の歴史に触れながら観光地を紹介し、農畜産物や温泉など鹿児島の魅力について講義しました。来年の明治維新150周年に向けて、鹿児島県のPRと観光を戦略的に展開していくとし、学生目線でのアイデアがあればぜひ提案してほしいとの要請もありました。

三反園知事からは、「人生は決断の連続であり、決断には勇気が必要です。夢を実現するために勇気を持って一步を踏み出してほしい」とエールが送られ、学生たちはその言葉に熱心に耳を傾けていました。講義の後、前田芳實学長から三反園知事に謝辞が述べられ、講義が締めくくられました。

今回の講義は、本年度から地域人材の育成や地元就職率向上を促進するため開講する「地域人材育成プラットフォーム」の基盤科目となっており、今後の学習成果の向上に繋がる機会となりました。



## 鹿児島大学OBゴルフ大会実行委員会が寄附

5月22日、鹿児島大学OBゴルフ大会実行委員会委員長の江口正純氏(鹿児島大学同窓会連合会会長)が学長室を訪れ、ゴルフ大会参加者からの寄附金(20万円)を前田芳實学長に寄贈しました。

寄附金は、4月23日に同委員会主催で開催された第36回OBゴルフ大会の参加者210名から母校のために使ってほしいと集められたもので、受け取った前田学長は、「温かい心遣いに感謝いたします。学生の留学支援や教育支援の充実などに大切にさせていただきます」と謝辞を述べました。



## 志布志市と包括連携協定を締結

鹿児島大学は、志布志市と包括連携に関する協定書を締結することに合意し、5月8日に志布志市役所において協定締結の調印式を執り行いました。

式では、協定概要の説明があり、引き続き、本田修一志布志市長と前田芳寛学長が協定書へ署名しました。

この連携協定は、それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。

本田志布志市長から、「この好機を活かすべく、本市の教育及び児童生徒の健全育成、基幹産業である農林水産業の振興、公共交通の確保・維持に関し、直面する課題の解決・活性化の一助となる施策を考えていきたい」との発言があり、また前田学長は「協定締結を機に、本学が標榜している地域社会の発展と活性化への貢献に挑んでいく決意を新たにしました」と述べました。



## 【寄稿】鹿児島大学名誉教授の会「樟寿会」より近況報告

鹿児島大学樟寿会は、鹿児島大学名誉教授を会員とする任意団体で、鹿児島大学と密接な連携を保ちつつ、会員相互の親睦と研鑽を図ることを目的としています。会員は、現在261人です。

毎年、会員相互の親睦と情報交換のために、総会と懇親会を開催しています。昨年は、11月12日に、鹿児島市内のホテルで第14回総会と懇親会を開催しました。総会では、活動報告と今後の活動などについて審議しました。懇親会には、前田芳寛学長、島秀典理事（総務担当）、大園利則総務部長を来賓にお迎えし、会員42人が参加しました。1990年ご退官の浦嶋幸世先生、1996年ご退官の伊牟田経久先生がお元気に出席されました。

前田学長から、平成28年度から始まった第3期中期目標・中期計画と今後の方針についてのお話がありました。また、島理事からは、大学は財政的に厳しい状況が続いているというお話がありました。

懇親会では、焼酎を酌み交わして旧交を温めるなどして、懇親を深めました。また、大学から寄贈された鹿児島大学ブランドの焼酎6本と樟寿会で準備した焼酎8本のお楽しみ抽選会があり、会場は大いに盛り上がりました。抽選で焼酎が当たらなかった人たちにも、鹿児島大学のネーム入りのボールペンなどが吉田会長から一人ひとりに手渡されて、会場は楽しく和やかな雰囲気になりました。今年も秋に、総会と懇親会の開催を予定しています。

なお、今年4月から新役員体制となり、吉田浩己会長、竹田靖史幹事長、坂東義雄総務担当幹事、松村和雄会計担当幹事、他8人（幹事、監査）のメンバーで運営しております。



## 鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため、鹿大「進取の精神」支援基金を創設し、寄附のご協力をお願いしております。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ先

鹿児島大学学長戦略室 TEL:099-285-3101, 3102 FAX:099-285-7034

E-mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

基金ホームページ: <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>





# 進め！ 鹿大生！ STUDENT INTERVIEW

まるやまさとし  
丸山覚詞さん

(共同獣医学部獣医学科4年生)



直感と想像力に従って、やりたいことをやれるだけやるのみ！

～佐多岬から宗谷岬まで。55日間走り抜いた日本縦断2700kmの旅～

丸山さんを日本縦断ランニングへ駆り立てたのは、中学時代から親しんできた長距離走にもう一度向き合いたい、という思いでした。

2016年8月6日、鹿児島県の佐多岬を振り出しに九州を北上し、関西、北陸、東北を経て9月29日、目的地とする北海道の宗谷岬に到達しました。炎天下の鹿児島をスタートした直後から、激しい体力の消耗や親指の爪の壊死などさまざまな故障に見舞われました。交通事故や熊などの遭遇を避けながら、一方では食料や宿泊先の確保に気を配る必要もあり、日常では味わうことのない緊張感をひた走る毎日でした。

「爪の状態によってはドクターストップがかかる恐れもありました。そうなったらキツイ旅で終わってしまうと思い、それからは距離を伸ばすだけではなく、風景や人々の一度きりの出会いを大切にしよう」と気持ちが変わりました。「熱い魂を秘めた人は、獣医師という次の目標へ向けて歩みを進めています。」

## 座右の銘

「自分の人生を、いまを生きる」

自分が何者で、何を成すのか。ひどく曖昧な上に誰にも頼めないことで、私たちは否応にも「自分の人生」と向き合っていくことになる。どうせ何が正解かも判らないなら、私は自分の直感と想像力に従って、やりたいことをやれるだけやってみよう。そうやって出来た足あとをいつかふと振り返って、これが自分の人生かと納得できたらいい。そんな生き方をしたいと思います。





# さっつんが行く!

鹿大キャンパス漫遊記

SATTUN's Campus Sketches



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さっつん

鹿児島大学  
ボランティア支援センター

Vol.07

## ボランティア支援センター

本学では平成20年度より共通教育科目においてボランティア関連科目を開講。同時にボランティア支援センターを開設しました。現在、約1000名の学生がセンターに登録し、災害支援やイベント参加などさまざまなボランティア活動に積極的に取り組んでいます。

センターでは、登録学生へのボランティア情報の配信、保険加入、用具貸し出しや災害ボランティアの際の経済支援等を行っています。

現在14名の学生が所属する学生ボランティアグループ「ボララ」が、センターの運営をサポートしており、ニュースター(年2回発行)の作成やボランティア団体紹介会・交流会の企画・運営など、学生の目線で学生のボランティア活動を支えています。



## 📷 今号の表紙「馬の闊歩するキャンパス風景」

本学郡元キャンパスの農学部周辺では、夕刻、悠然と散歩する馬の姿を目にすることがあります。手綱を引いて歩くのは馬術部のメンバー。散歩は、馬術部が所有する3頭の馬のリフレッシュと運動のために行われるものです。馬術部では、基本的に早朝、本学正門近くの馬場で競技に向けた練習を行います。天候や時間の都合で練習できない時など、各馬付きの部員が交代でキャンパス内を連れて歩くのです。散歩コースや所要時間は特に決まっていませんが、馬の調子を見ながら、人気の少ない静かな場所を選び、散歩させています。キャンパス内で馬が歩く姿を見られるのは、構内に馬小屋や馬場を有する本学ならではの、心なごむ牧歌的な風景です。

